

岩手わんこそばラウンド報告書

6杯目!

平成30年2月10日(土) 岩手大学教育学部附属中学校
参加者 55名(東京、神奈川、茨城、福島、岩手)

- 1 公開授業 中学校第2学年 器械運動「跳び箱運動」
指導者 高橋 走 教諭
- 2 研究協議 ・公開授業について ・県小・中体研の取組について
- 3 ワークショップ 「わかるとできる」をつなぐ体育の授業づくり
桐蔭横浜大学 佐藤 豊 教授



1

公開授業を見る

本時の目標 「前へ推進力のあるかかえ込み跳びができるようになろう」



盛岡の厳しい冷え込みをものともせず、2年B組36名の生徒たちと、高橋走先生による、元気あられる勢いのある授業が展開されました。

切り返し系の技能について、概念知、方法知、具体知を整理したうえで、生徒の思考を活性化させるとともに、汗をいっぱいかくほどの運動量を確保していました。

解説例示	方法知 高め方・場の工夫	具体知 ポイント・こっ
○切り返し系グループ(跳び箱上に支持して回転方向を切り替えて跳び越す) ・踏み切りから上体を前方に振り込みながら着手する動き方、突き放しによって直立体勢に戻して着地するための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして跳び越すこと。	・うさぎ跳び ・マット跳び越し ・目線意識した横跳び ・マーカー、ボール間隔跳び ・ステージへの跳びあがり ・ステージからの跳びおり ・2つの跳び箱を使って切り 返し練習	・勢いのある助走 ・力強い踏み切り ・腕を前に出す ・着手は奥 ・すばやく膝を胸に引きつける ・目線は前 ・着地安定

2

公開授業について熱く語り合う

小中の教員、学生、指導主事が、校種や立場を超えて、自由に感想等を交流し、優れたマネジメント等による学ぶべき点の多い授業であったことが確認されました。

その後の指導者との対話形式による質疑応答では、「技のポイントのとらえは適切であったか。」「生徒の観察のさせ方は、あれでよかったか。」等、探求心に満ちた熱い議論が続きました。





岩手県小学校体育研究会・中学校保健体育研究会 北上大会（平成30年11月9日（金））に向けて

県小体研の研究部長である山内弘文先生から、来年度の北上大会に向けたこれからの取組について提案がなされました。

今後も「い・わ・て」の文字をとった「**いきる**」「**わかる**」「**できる**」子どもが輝く**体育授業の創造**をテーマに、「小中の連携」「校内の先生たちとの共有」等を大切にしたい取組を進め、当日は、実りある大会になることを期待したいですね。県内外からの多くの参加をお待ちしています。



ワークショップ「わかとできる」をつなぐ体育の授業づくり

器械運動系の「技能」「態度」について、「概念知」「方法知」「具体知」を整理するワークショップを、小中学校種別に新学習指導要領を用いて行いました。佐藤豊先生の説明は、明快で、なるほどと思うことばかりでしたが、いざ作業に取り掛かると、これがなかなか難しい。みんなで頭を抱えながら、知恵を出し合いました。「難しかったけど、有意義だった。」との声が多くありました。

午後からは、高橋修一調査官にも参加いただき「態度も大切な指導内容であり、なぜそれが必要か理解できるようにすること」「知識は、子供の学びを豊かにすること」等々、本日の盛りだくさんの内容をまとめていただきました。



学年	器械運動	領域
概念知	コア・コンセプト	解説例示
踏み切り	踏み切り両足と踏み切り	
踏切運動	踏切の位置を高く保ち、着地時に足先を揃えること	・着地時の姿勢 ・着地時の足先
回転	両手に回転し、着地すること	・両手第一関節 ・両手第二関節 ・両手第三関節 ・両手第四関節

学年	器械	領域	領域の内容(態度)
解説の表記			
運動の進め方(新組立、3割1割1割の割合で進めたい)			
友達と協力して、場や器械・器具の安全に気を付けて行うこと			

概念知(する意味)	方法知(どのように高めるのか、どのように概念と具体を往還するか)
<ul style="list-style-type: none"> 安全に運動ができる 自信をもてること 仲間と協力する 	<ul style="list-style-type: none"> 活動時間がある 仲間と協力する 自信をもてること 仲間と協力する
具体知(何をやるのか)	
<ul style="list-style-type: none"> 仲間と協力する 自信をもてること 仲間と協力する 	



学び続けることの大切さ

「『方法知、具体知』といった新しい捉え方と出会って、まだ自分の中で消化できていない部分があるので、少しずつ理解を深めたい。」「これほど専門的に体育のことを学習したのは初めてでした。」これは参加者の感想の一部です。子供たちが、今後の予測困難な難しい時代を、多様な人々と協働して生き抜いていけるようになるために、私たちも、学び続け、よりよい授業を目指していきたいと思えます。今回も、県内外の個性的（多様）な仲間との新しい出会いがあり、協働的に学んだ充実のラウンドとなりました。